

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101580		
法人名	医療法人 社団 扇寿会		
事業所名	グループホーム なでこの丘		
所在地	金沢市馬替2丁目7番1号		
自己評価作成日	令和 5年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和5年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・来居される方、入居の方、職員同士、いずれも積極的に明るく挨拶するよう心掛けている。 ・新型コロナウイルスをはじめ、様々な感染防止・予防及び拡大防止の観点から施設内の除菌を毎日行っている。 ・各フロアで工夫し、ほぼ毎月季節の行事や喫茶を実施している。また、その様子を玄関に写真で展示している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りや情報交換時に目標と理念を共有している。理念は玄関に明示されている他、パンフレットにも明記され入居時に説明し、同意を得ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、外部との交流は見合わせているが、今後様子を見ながら再開していくことも検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室や地域のボランティアに場所を提供する等の交流は、新型コロナウイルス感染防止の為数年控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、会議は中止していたが、今年度より再開し、以前のように家族や、地域の方々から意見をいただき、サービスの向上に活かす努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市担当者に相談したり、時には直接電話をしアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。他の拘束についても日頃から職員同士話し合い、施設内研修でも見識を深め、全員が正しく理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修に参加し、学習している。毎日の申し送りでも、情報を共有し、意見を出し合い、防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方がいる。後見人様とは連絡を密にし、面談でコミュニケーションを図り、情報交換を行っている。今後も必要な方に活用できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時必ず契約に関する説明を、納得されるまで行っている。疑問や質問があればその都度答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の担当者会議や家族へのアンケートで、意見や要望を伺い、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週木曜日の情報交換で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の悩み事他何でも話し合える雰囲気作りをしている。年1回人事考課の自己評価表、ストレスチェックを全員が記入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人オリエンテーションをし、新人チェックリストを作成し、教えながらチェックしていく。月1回～2回施設内研修、年数回施設外研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍から交流の機会は減っているが、徐々に市のグループホーム部会や他の研修などに参加した時は情報交換をし、良いところは吸収し、日々のケアに活かすように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個室にて、ゆったりとした馴染みやすく話しやすい環境作りを努め、本人の思いを受け止め、話を傾聴し、少しでも早く安心、納得されるよう気配りしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に日常の様子をお伝えし、いつでも気軽に話して頂けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を求めているか見極めるよう努め、種々のサービスがある事を話しながら、家族・本人が納得できるサービスを提供できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や、生活歴をよく知るように努めている。また、若いころの話など聞いて学ぶことも多く、お互いに知らない事を補い、助け合っている。人生の先輩としての尊厳の念を忘れず持ち続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取りながら、面会時には近況報告なども行う。家族に対して要望を伺い、一緒に考えながら支援できるよう、話し合いの場を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況を把握するように努め、話題にする等している。現在面会は主にリモートか、玄関ロビーで短時間となっているが、以前は自室でお茶をお出しするなどしてゆっくり過ごして頂いていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが図れるよう、程よい仲介をするよう心掛けている。全員で歌や、ゲーム等行える雰囲気づくりをしている。また、個人の時間も大切にして、常に見守りをして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の場所で出会う時などは挨拶をして近況を伺ったりしている。また、困りごとなどあれば相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを第一に考えている。日頃の何気ない会話、表情や行動などから思いを汲み取りようとしている。また、可能な限り本人ペースで過ごしていただけるように見守り、寄り添いケアに活かすよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの生活歴や生活環境などを聞き取り、また関係各所からの情報を理解・把握し支援に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康状態をアセスメント把握に努めている。また、日常的に趣味を取り入れた過ごし方を本人とともに考え、自己決定できる関わりを努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を汲み取り、モニタリングし現状把握を行う。本人・家族・職員間で話し合い現状に応じた介護計画を作成している。見直しは常に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にもとづいて統一したケアを実践しており、1ヶ月毎に本人の状態をショートサマリーとして記録しケア実施記録表を導入、個別のケアを明確にし毎日実施、評価している。また職員は常に情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアによる行事や老健施設でのレクリエーションなど行事への参加は出来なくなったが今年度より、職員ボランティアによるお茶会を再開し、またフロアごとの喫茶を開催している。手作りお菓子を提供したり、入居者の好みの飲み物を準備し楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常は地域の小学生とのふれあい、夏祭りへの参加、ボランティアや消防署（消防訓練など）と協力しながら支援しているが、新型コロナウイルス感染防止の為外部との交流は減っている。今後は状況を見ながら交流を増やしていくことも検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診察を2週に1回受け、個別にかかりつけ医がある利用者は往診を受けたり、受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者含め、看護師が2名日中はほぼ常勤しているので、些細なことも相談し、健康管理などの支援をしている。緊急の場合も、携帯電話などを使用し、迅速に対応できる体制を作っている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、必ず様子をうかがいに顔を出し、又、早期に退院できるよう医師や病院看護師と情報交換し、話し合っている。現在は、新型コロナウイルス感染防止の為、電話で情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向にある方は、職員間でまず話し合い、早めに家族、主治医と話し合い、方針を決めている。また、グループホームとして出来る事、出来ないことを見極め、主治医と連絡を密にとり、支持を得ながらチーム全体として対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会をし、実践も行っている。マニュアルも作成してある。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のマニュアル、連絡網の徹底と、AED(平成28年度より設置)の勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力病院に南ヶ丘病院、施設に老健までこの丘があり、バックアップが十分に整っている。月2回の訪問診察や定期受診をしている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	3ユニットで各フロア1名ずつ夜勤体制をとっており、連絡網も整っている。緊急時のマニュアルもあり、正しく連絡を取り合い、応援体制をすぐに作る事が出来る。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(年2回)消防避難誘導訓練しており日頃より地域の人々の協力も得られるように働きかけている。又、マニュアルも作成してある。現在は新型コロナウイルス感染防止の為、避難訓練は年1回とし、地域の方の参加も中止している。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時のマニュアル作成をしており備蓄品も準備している。年1回 見直し・交換点検している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶ時はさん付けで呼び、常に尊敬の気持ちを忘れず、優しい声掛けを行っている。排泄は個人のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。ドア及びカーテンを閉める等周囲に配慮しさりげなく誘導や介助をしている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解できにくい方には、分かるようにゆっくりと説明し(筆談もあり)自分で洋服を決めてもらったり、行事やレクの参加を決めてもらったり、急がず本人のペースに合わせ支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自のペースに合わせ穏やかな日々を過ごせるよう支援している。行事なども声掛けするが無理強いはず、本人の希望に沿うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装選びを自由にしてもらっており、相談を受ければアドバイスしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や後片付けを行っている。一緒にテーブルに着き、食事も、季節や思い出話、献立について等会話している。さりげなく食事のサポートもしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェックや排泄の状況、食事摂取量を把握している。歯の状態の悪い方には刻み食や、体調によりお粥食を提供している。お茶や牛乳等を飲用して頂き、水分量を確保している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。義歯装着の方は洗浄し、うがいをしている。週2回(月・木)義歯除菌している。いずれも自分でできる方はなるべく手伝いはせず、見守りしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のパターン、行動を把握し、声掛けと誘導を行っている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握し、食事や水分補給に気を配り、軽い運動(ラジオ体操他)を行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望を取り入れ、楽しく入浴ができるよう工夫している。毎日どこかの階が入浴を行っており、他の階での入浴が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活に配慮し工夫している。睡眠パターンの把握に努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報交換で話し合い勉強会をもっている。(他フロアの薬の情報)カルテに薬の効能書きをはさみこんであり、理解している。(作用、副作用、用法、用量)内服後の症状の変化も必ず観察している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ前は家事、散歩、買い物、ドライブなども楽しんでいるが、現在は新型コロナウイルス感染防止の為、外出は出来なくなっており、各フロアでの行事や活動に力を入れている。季節ごとの行事は喜ばれている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大前はご家族と外泊・外出など本人の希望に沿って支援していたが、現在は受診以外の外泊・外出は控えている。天気の良い日などは、職員と共に近所へ散歩に出かけたりしている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は職員と一緒に買い物も行っていたが、現在は感染防止の為 外出を控えている。また、認知症も進み介護度も重くなった方が多く自己管理が難しくなった為、小遣い帳を作り本人の希望に応じて職員が買い物代行し、ご家族に確認して頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯持参の入居者は必要時家族へ電話をしている。本人希望時は代わりに電話をかけたり、家族よりの電話も取次ぎしお話をさせて頂いている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節に合わせた花や飾り物を置いてある。入居者が生活しやすい家庭的な雰囲気がある。季節に応じてエアコンと加湿器、サーキュレーターを使用し、快適に過ごせるよう配慮している。清掃可能な入居者の方が職員と一緒に掃除を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビの見やすい位置にソファを置き、くつろぎながら雑談が出来るよう工夫している。一人でじっくりパズルをする人や好きな場所に移動して気の合う者同士過ごす姿が見られる。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や、家族と相談し、使い慣れた机や椅子等を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、手すりを利用して歩行する方もいる。和室の階段には滑り止めをし、転倒防止に努めている。和室の縁は腰かけられる様になっており、休みながら歩行もできる。		